

## 第4学年 社会科学習指導案

ろ組 男子17名 女子17名 計34名  
指導者 上江洲 洋志

### 1 小単元 わたしたちのくらしとごみ

### 2 小単元について

#### (1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに鹿児島市の様子について、地域の人々の生産や販売に関する仕事が、他の地域とかかわりをもちながら、消費者の願いにこたえるための様々な工夫や努力によって自分たちの生活を支えていることをとらえてきている。また、日常の生活に必要な飲料水が、水道事業に従事する人々の工夫や努力によって安定的に確保、供給されており、自分たちの健康な生活を支えていることをとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、他にも自分たちの生活を支える事業が行われているのではないかという関心を持ち、追究していきたいという意欲が高まってきている。

そこで、本小単元では、ごみや資源物の処理について追究する活動を通して、それらの対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上のために、計画的、且つ、地域の人々や企業の協力によって行われていることをとらえさせようとするものである。さらに、見学や、写真や図、グラフといった資料を活用しながら、健康で衛生的な生活を送りたいという市民の思いとごみ処理の様子とを関連付けて考える力や、よりよいごみ処理の在り方について判断する力を高めたいとするものである。

このような学習は、災害や事故から人々の安全を守るための関係諸機関の働きやそれに従事する人々の工夫や努力と地域住民との連携について追究する学習へと発展していくものである。

#### (2) 指導の基本的な立場

鹿児島市では、北部清掃工場や横井埋立処分場、リサイクルプラザといった施設を中心に、民間企業とも連携してごみや資源物の処理を行っており、その処理には、平成25年度は約49億円の費用を投じている。また、その分別方法を、大きく燃やせるごみ、もやせないゴミ、粗大ゴミ、資源ごみの4類型15品目とし、ゴミの発生抑制、再生資源の利用促進に努めている。これらの取組や市民意識の高まりから、市民一人当たりのごみ処理経費は減少傾向にあるが、資源化率については上下を繰り返している。市民の生活を快適かつ衛生的に保つとともに、資源を持続可能な形で利用し、自然環境を保護、維持していくために、鹿児島市では「鹿児島市一般廃棄物処理基本計画」を定めており、その中では、さらなるごみの減量化や再資源化のための数値目標を設定している。

そこで、ここでは、ごみの発生抑制やごみ処理の方法、資源物の利活用の様子と、それらに従事する人々の工夫や努力を取り上げ、写真や図、グラフといった資料を活用しながら、それらの様子や問題点を調べる活動を設定していく。その際、**子どもの意識が、一市民としてゴミの減量化、自然環境や資源の保護と持続可能な開発に向かうようにするために、よりよい鹿児島市のごみ処理の在り方について価値判断したことを話し合ったりする活動を位置付けていく。**

そのために、まず、家庭や学校から出されるごみについて話し合わせ、日頃生活していく上で様々な種類のごみが出ていることをとらえさせる。そして、**鹿児島市がごみの減量化や再資源化をより進めようとしていることをとらえ、その意義を話し合う活動から、問題意識をもたせるようにする。**次に、一人一人の予想や学習計画を基に、見学や調査などを通して追究させていく。その際、ごみが清掃工場や埋立地で処理されていることをとらえさせるとともに、その処理は、市民や企業の協力を得ながら、従事する人々の様々な工夫や努力によって支えられていること、多くの費用が必要でありそれが市民の税金で賄われていることについてとらえられるようにしていく。そして、**追究の結果分かったことを基にこれからのごみや資源物の処理の在り方について価値判断させることで、よりよい対策や事業、自然環境や資源の保護、活用に対する自分の考えをもたせるようにしていく。**

このような学習を通して、子どもたちは自分たちのくらしとごみや資源物の処理の対策や事業との関係が分かる楽しさを味わいながら、地域社会の一員としての自覚を高めていくことになる。

**(3) 子どもの実態（調査人数名、質問紙法、重複回答、主な質問事項のみ記述）**

1	ごみ・資源物の種類 紙類(30), 生ごみ(20), ペットボトル(18), プラスチック(17), ビニル(12), びん類(7), 容器・包装類(5)
2	ごみ・資源物の分別 ○ 燃やせる・燃やせない・資源物(3) ○ 燃やせる・燃やせない(資源物混在)(10) ○ 燃やせる(資源物混在)・燃やせない(3) ○ ごみ・資源物混在(7)
3	ごみ・資源物の行方 ○ 収集車→清掃工場等, 種類別の行き先 ○ 収集車→清掃工場等のうちいずれか ○ 収集車→リサイクル工場
4	ごみ減量の意義について 資源(11), 快適な生活(9), 土地不足(5)
5	ごみ減量, ごみ処理の在り方 リサイクル推進(13), エコバッグ等の活用(5)
6	本単元にかかわる資料活用力について ①地図…記号の読み取り 正答(32) 方位による位置関係 正答(30) ②グラフ…変化(15), 最大値(7), 最小値(5) ③写真…行動の違い(27), 行動のねらい(25) ③追究方法…見学(30), 関係者取材(20), 教科書(15)
6	期待する活用の仕方 グループ新聞作り(18), 各自ノートまとめ(16), 個人新聞(10), パンフレット(3)

この学級の子どものうちのごみの処理についての見方や考え方は次の通りである。子どもたちは、これまでの生活経験から、ごみや資源物が多様に存在していることに気付いている。しかし、その分別について正しく理解している子どもは少ない。中でも、資源物については、位置付けが不明確であったり、他のごみとの区別を混同したりしている。これは、種類ごとに分別して廃棄するという生活経験はあるものの、廃棄したものを自分でごみ捨て場に搬出したり、分別する理由を考えたりするという経験が少ないためであると考えられる。また、出されたごみや資源物の行方や処理の方法について、清掃工場等の存在はとらえているものの、その働きを具体的にとらえている子どもは少ない。さらに、ごみ減量の必要性については感じているものの、その意義や具体的な方法について考えを明確にもつことができている子どもは少ない。

写真の読み取りに関しては、かまぼこ工場の作業員の手の洗浄と、粘着テープによる服の埃の除去という行動の違いに気付くだけでなく、それぞれの行動の共通した理由についてあげる子どもが多かった。これは、菓子工場の見学の際に、食品の安全や衛生に気を付けていることを調べていることが生かされていると言える。グラフの読取については、学習経験の不足から、十分な読取ができている子どもが少ない。また、追究の方法については、見学や取材を挙げる子どもが多かった。

**(4) 指導上の留意点**

以上のことを踏まえて、指導に当たっては、次のようなことに留意したい。子どもの意識が、一市民としてゴミの減量化、自然環境や資源の保護と持続可能な開発に向かうようにするために、よりよい鹿児島市のごみ処理の在り方について繰り返し価値判断したり、判断した理由を話し合ったりする活動を位置付ける。また、判断する意義や喜びを感じさせるために、最終的な価値判断を基に、今後の鹿児島市のごみ処理の在り方について提案書にまとめ、送付するというプロジェクトを位置付けていく。このような学習を、以下のような手順で実現していく。

ア まず、自分のくらしとごみのかかわりに気付かせるために、家庭や学校で、どのようなものが排出されているか話し合わせる。また、鹿児島市のごみ処理の様子に対する問題意識をもたせるために、市のごみ処理計画を提示することで、ごみの減量や資源化の促進の必要性を感じさせ、「今後のごみ処理の在り方」に関する論題を設定する。その後、追究への見通しをもたせるために単元当初の価値判断とその理由を話し合わせる活動を設定し、判断の根拠となる事実の必要性に気付かせ、追究の計画を立てさせていく。

イ 追究にあたっては、「鹿児島市の取組」「市民の取組」「企業の取組」という、ごみ処理の問題にかかわる3つの立場を柱として追究させていく。ごみや資源物処理に対する事業が、鹿児島市において計画的、協力的に進められていることを具体的にとらえさせるために、ごみ収集所や清掃工場、最終処分場などの見学や、そこで働く人々への取材をさせる。そして、見学や取材したことを基に、ごみや資源物処理にかかわる施設や働く人々の工夫や努力と、健康で衛生的な生活を送りたいという市民の願いや資源、環境とを関連付けてとらえさせていく。そのうえで、より効果的な処理の在り方について、先進的な取り組みをしている他地域や企業と比較



## 5 本 時

### (1) 目 標

鹿児島市のごみの量と減量化計画における目標値を比較したり、ごみ減量の意義を話し合ったりする活動を通して、「ごみ減量化のために誰が、どんなことに取り組んでいくべきか」という論題を設定し、判断するとともに、判断の妥当性を検証しようとする意欲を高め、追究への見通しをもつことができる。

### (2) 本時の展開にあたって

本時では、課題の明確化を目的とした学び合いが重要だと考える。そこで、**鹿児島市のごみ排出量及び資源化率の現状と減量化計画における6年後の数値目標とを比較させ、「7年後の数値は何を表しているか。」**と問いかけることで鹿児島市がより一層のゴミ減量、資源化率向上を目指していることをとらえさせる。そして、**その意義を問う発問や実現の可否を問う発問を行うことで、ごみ処理に関する問題を自分事としてとらえ、論題を設定できるようにしていく。**

### (3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
<p>確め 認あて の</p> <p>めあて の 究 明</p> <p>学習問題の設定と追究計画の立案</p> <p>まとめ</p>	<p>1 本時の学習問題をとらえる。</p> <p>「わたしたちのくらしとごみ」の学習で、調べたいことや考えていきたいことを話し合おう。</p> <p>2 資料から、論題を話し合う。</p> <p>(1) ごみ処理には、鹿児島市がかかわっていることをとらえる。</p> <p>(2) ごみ処理にかかわる鹿児島市の計画をとらえ、その意義を話し合う。</p> <p>(3) とらえた課題を基に、論題を設定する。</p> <p><b>【鹿児島市のごみ処理】</b></p> <p>3 論題に対する初めの価値判断をし、その理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わたしたちが分別リサイクルを心がけるべきだ。</li> <li>鹿児島市が、ごみの集め方や処分の仕方を工夫していくべきだ。</li> <li>店や工場が、ごみが出ないような製品を作ったり売ったりするべきだ。</li> </ul> <p>4 本時の学習について振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>追究の計画</li> </ul>	<p>(分)</p> <p>↑</p> <p>7</p> <p>↓</p> <p>30</p> <p>↑</p> <p>8</p> <p>↓</p>	<p>㊦ 写真 (学校や家庭から出されるごみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活の中で、様々なごみが出されていることをとらえさせるために、写真から得た気づきや、自分の生活経験を基に、どのようなごみが出されているか話し合う。</li> </ul> <p>㊦ 写真 (ごみ収集車、ごみ収集の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごみ処理が、鹿児島市の働きによってなされていることをとらえさせるために、ごみ収集の様子や収集車両の文字に着目させ、気づきを話し合わせる。</li> </ul> <p>㊦ 表 (鹿児島市のごみ減量、資源化等の目標値)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鹿児島市が、ごみの減量等を進めようとしていることをとらえさせるために、年次ごとに目標値を比較させ、気づきを話させる。(①)</li> </ul> <p>㊦ VTR (市の担当者の話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごみ減量について考えていく意義をとらえさせるために、市が計画を立てる理由を話し合うとともに、その妥当性を検証させるために市の担当者の話を視聴させる。(②)</li> <li>○ 追究の意欲を高めさせるために、<b>追究したことをどのように生かしていきたいか</b>問いかけ、<b>よりよいごみ処理のための提案書をまとめ、送付しようというプロジェクトを設定する。</b>(③)</li> <li>○ 追究の見通しをもたせるために、初めの価値判断とその理由を話し合わせる。その際、「企業」という立場から考えさせるために、製品の中で、どんなものがごみとなっていくかを話し合わせる。</li> <li>○ 次時への見通しをもたせるために、<b>説得力のある提案にするために必要なことは何か</b>と問いかけることで、<b>根拠となる事実の必要性</b>に気付かせる。</li> </ul>